合同開催シンポジウム：ヘルスデータサイエンティスト協会 JST-RISTEX 孤立・孤独対策 岡プロジェクト

WEBセミナー
(Zoomウェビナー)

参加申込は
こちらから

2026 年 3 月 27 日(金)
13:00 ～ 17:30

【申込方法】
締切：2026年3月21日（土）
ヘルスデータサイエンティスト協会HP、Peatix（下記URL）または、QRコードよりお申込みください。
ヘルスデータサイエンティスト協会HP： https://japan-hds.org/
Peatix：https://hdsjst20260327.peatix.com
【参 加 費】無料（どなたでもご参加いただけます）
【定　　員】450 名（先着順）

プログラム概要

第Ⅰ部（13:00 ～ 15:10）
第10回ヘルスデータアナリティクス・マネジメント研究会

13:00 - 13:05	開会の挨拶
13:05 - 13:50	講演1
13:50 - 14:35	講演2
14:35 - 15:05	パネル討論会
15:05 - 15:10	閉会の挨拶

第Ⅱ部（15:10 ～ 17:30）
JST-RISTEX孤立・孤独対策 岡プロジェクト シンポジウム

15:15 - 15:20	開会の挨拶
15:20 - 16:20	グループリーダーの活動報告
16:20 - 17:20	パネル討論会と質疑
17:20 - 17:30	閉会の挨拶

第Ⅰ部【AIとヘルスデータサイエンス】

近年、AIとヘルスデータの活用は医療・健康分野で急速に進展し、診断支援や予測分析などで実用化が進んでいる。一方で、日本のAI利活用は効率化や海外技術の追随にとどまり、イノベーション創出には課題が残る。また、患者の主観的経験や生活背景など、数値化しにくい情報を反映できない問題も指摘されている。これらを踏まえ、AIとヘルスデータを活用した健康管理のあり方と課題について議論を深める。

第Ⅱ部【現場知×学術知、総合知で考える孤立・孤独対策 】

各グループによる活動報告を通じて、これまでの取り組みと研究の進捗、今後の課題などを共有する。パネル討論会では、現場で支援に携わる自治体やNPOなどからの問題提起、また、第Ⅰ部に続きAIを活用した支援の有用性や運用上の課題についても、多角的に議論を深める。

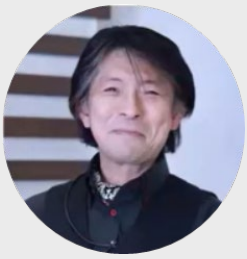
【主　催】第Ⅰ部　一般社団法人 ヘルスデータサイエンティスト協会
第Ⅱ部　情報・システム研究機構 統計数理研究所 医療健康データ科学研究センター
JST-RISTEX「SDG'Sの達成に向けた共創的研究開発プログラム（社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築）」の研究開発プロジェクト「行政・NPOの孤立・孤独対策現場知を支援する総合知に基づく学術体制構築」（研究代表者：岡檀）
【協　力】第Ⅰ部　情報・システム研究機構 統計数理研究所 医療健康データ科学研究センター
JST-RISTEX「SDG'Sの達成に向けた共創的研究開発プログラム（社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築）」の研究開発プロジェクト「行政・NPOの孤立・孤独対策現場知を支援する総合知に基づく学術体制構築」（研究代表者：岡檀）
第Ⅱ部　一般社団法人 ヘルスデータサイエンティスト協会
【お問い合わせ】　一般社団法人 ヘルスデータサイエンティスト協会/情報・システム研究機構 統計数理研究所 医療健康データ科学研究センター
hds.secretariat@gmail.com

登壇者 プロフィール

【第Ⅰ部】 第10回 ヘルスデータアナリティクス・マネジメント研究会 ～ AIとヘルスデータサイエンス ～

講演1（13:05～13:50）

「イノベーション多産な日本とするために AIができることとは？」



今やIT後進国日本として、AIの利活用促進は喫緊の課題ではあるものの、昨年からAI依存への懸念についても海外を中心に議論が活発化している。その反面、直近の利益、そして「効率化」と「米国の後追い」から脱却できない日本であるが、この状況がもたらす長期的なデメリットと、あるべき取り組みについて考察する。

栗原 聡

慶應義塾大学理工学部 教授
人工知能学会 会長

講演2（13:50～14:35）

「世界の真ん中でチャンスを掴む ～ 一人称ナラティブからのヘルスケア ～」

生成AIは便利で、その発展は著しい。しかし、AIがデータという「世界の薄皮」によってたっていることを忘れると、様々な問題を煽り出す。本講では、データになりにくい対象として網膜剥離患者の一人称ナラティブを挙げながら、「世界の真ん中」で生きるヒトの健康管理の行方を考える。

大澤 幸生

東京大学大学院工学系研究科 システム創成学専攻 教授

【第Ⅱ部】JST-RISTEX孤立・孤独対策 岡プロジェクト シンポジウム ～ 現場知×学術知、総合知で考える孤立・孤独対策 ～

活動報告（15:20～16:20）

岡　檀　「孤立・孤独に傾きにくい社会の形成を目指して」
情報・システム研究機構 統計数理研究所 医療健康データ科学研究センター 特任教授

新井崇弘　「こども若者の孤立・孤独と政策開発への示唆」
多摩大学 経営情報学部 専任講師

西尾　隆　「孤立・孤独対策知の総合化と自治体現場」
一般社団法人 いのち支える自殺対策推進センター 客員研究員

椿　広計　「政府公的統計調査個票データからの孤立・孤独の現状把握」
情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設 副施設長

パネル討論会と質疑（16:20～17:20）

本村 陽一
国立研究開発法人
産業技術総合研究所
人工知能研究センター
首席研究員

伊藤 次郎
NPO法人OVA 代表理事

椿　広計
情報・システム研究機構
データサイエンス共同利用基盤施設 副施設長

林 星一
座間市福祉部参事兼地域福祉課長

参加申込は
こちらから

WEBセミナー
どなたでもご参加できます
(参加費無料)